

## 今宿五郎江13

—今宿五郎江遺跡第11次調査報告(1)—

## 報告書抄録

ふりがな	いまじゅくごろうえ13							
書名	今宿五郎江13							
副書名	今宿五郎江遺跡第11次調査報告(1)							
巻次								
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	1181							
編集者名	杉山富雄							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621福岡県福岡市中央区天神一丁目8番1号 TEL092-711-4667							
発行年月日	20130322							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°	°		m	
今宿五郎江11次	福岡県福岡市西区今宿町	40130	626	33°34'28"	130°16'19"	20050708 ～ 20061209	6,500	区画整理
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
今宿五郎江11次	集落 包含層	弥生 古墳 中世	溝、掘立柱建物、 井戸、土壇	弥生土器、石器、 木器、玉類、鉄器・ 青銅器		弥生時代後期の大溝を 掘削した谷部から大量 の土器、木器類が出土。		
要約	遺跡西側の低い台地上に掘立柱建物、弧状の溝が分布する。調査区内を北へ流れる谷底に溝が掘削されており、溝、谷部の堆積層から大量の弥生土器、木器のほか金属器等が出土した。この溝は、遺跡東側の谷から遺跡南辺を巡り、台地を超えて西側の11次地点まで続くことがわかった。							

## 今宿五郎江13

—今宿五郎江遺跡第11次調査報告(1)—  
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1181集

2013年3月22日

発行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神一丁目8-1  
印刷 株式会社西日本新聞印刷  
福岡市博多区吉塚八丁目2-15

2013

福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1181集

いま じゆく ご ろう え  
今 宿 五 郎 江 13

—今宿五郎江遺跡第11次調査報告(1)—



調査番号0531  
遺跡略号IZG-11

2013

福岡市教育委員会





図1 1・2区（北から、谷部4203 上部状況）



図2 3・4区（北から、谷下部調査状況）



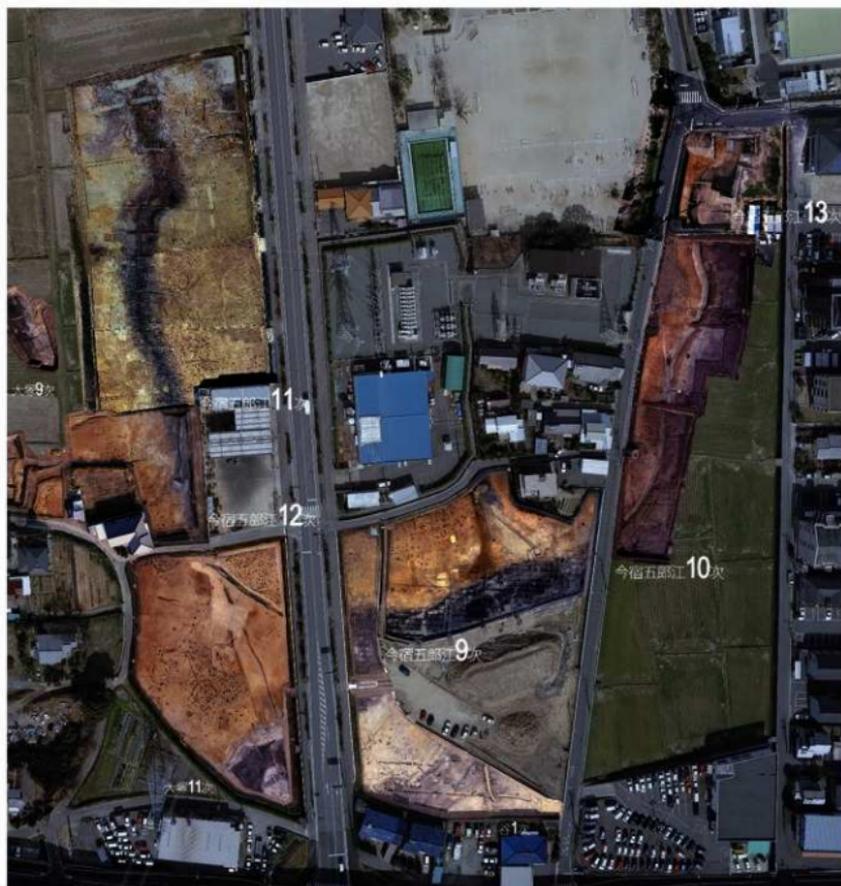


圖3 今宿五郎江道跡調査地点（上方が北）



## 序

福岡市の西部に位置する今宿平野は、中国の史書にその名を残す糸島平野の東を占め、歴史的にみても重要な位置にある地域です。しかし今、土地区画整理事業が完成近く、縦横に整備された道路が走り、日々街の姿を整えつつあります。

福岡市では、工事等により現状での保存が不可能となった埋蔵文化財について、記録による保存を図ることとし、そのための発掘調査を行ってきました。本書は、この目的で伊都土地区画整理事業地内において実施した今宿五郎江第11次調査の報告書として刊行するものです。

本報告の刊行は、関係各位の多大なご理解とご協力の結果であるとここに記し、心からお礼を申し上げます。また、本書が今宿平野の歴史について、理解を深めるための資料として資するところがあれば幸いです。

平成25年3月22日

福岡市教育委員会  
教育長 酒井龍彦

## はじめに

- 1 本書は、2005（平成17）年から2006（平成18）年度にわたり、福岡市西区今宿町伊都土地区画整理事業地内で福岡市教育委員会がおこなった、今宿五郎江第11次調査報告の1であり、調査遺構について報告する。
- 2 発掘調査は、文化財保護法57条の3（改正前）に基づく通知を受け、埋蔵文化財保存についての協議を行った結果、福岡市都市整備局（当時）伊都地区画整理事務所の依頼により、記録保存を目的として、教育委員会埋蔵文化財課（平成24年度組織改編により移管し経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課）が実施したものである。作業は、関係各位のご理解とご協力のもと、円滑に遂行することができた。この場で深く感謝申し上げます。
- 3 発掘調査は、期間を通じて埋蔵文化財課（当時）杉山富雄が期間を通じて担当したほかに、期間の前半を阿部泰之、今井隆博、後半を加藤良彦、加藤隆也の応援を得た。本書編集は、杉山がおこなった。
- 4 出土資料および調査記録は、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵管理し、利用に供する予定である。

## 凡例

- 1 位置の記録は、伊都土地区画整理事業に伴い設置された基準点（日本測地系）を利用した。
- 2 調査区画については、座標系の格子を利用し、表記の標準化を図った。100m格子を東西10分割し、さらにそれを各5分割した2m格子を設定した。100m格子の位置は、1km格子を同様10分割した位置で表示した。実際は各2桁の数字を用い、上の桁が西方向、下の桁が北方向への分割区画を示す。100m格子に「G」を冠して記述中でわかるものとした。  
例）G46-8032は100m区画46の東から8、南から10番目の10m区画中で、東から3番目、南から2番目の2m格子。
- 3 図中に用いる方位は国土地産標の座標北であり、真北から0° 19′ 西偏している。
- 4 報告中の遺構・遺物番号は、それぞれ登録番号を用い、調査現場での記録から整理、収蔵まで一貫して管理し、台帳・図・日誌等関係に記載した情報と極力関連づけておくことに努めた。記述中必要に応じて、遺物には「R」、遺構には「M」を付した。また、遺構番号については、第10次調査の番号を引き継いで、I201から用いることとした。

遺跡調査番号	0531		調査略号	IZG-1	
調査地籍	福岡市西区今宿町76-1の一部、76-2、78-5、92-2、92-5、95、97-1の一部、および98		分布地図番号	1112	
工事面積	130ha	調査対象面積	6,900㎡	調査面積	6,900㎡
調査期間	2005（平成17）年7月8日～2006（平成18）年12月9日				

## 本文目次

I 今宿五郎江遺跡第11次調査の概要	
1.発掘調査に至る経緯	
伊都土地区画整理事業	概要試掘調査 確認調査
2.発掘調査の実施	
今宿五郎江遺跡の調査	今宿五郎江遺跡第11次調査
3.今宿五郎江遺跡の立地と調査地点の地形	3
今宿五郎江遺跡の立地	
4.第11次調査出土遺構・遺物の概要	3
検出遺構出土遺物	
II 第11次調査出土遺構	
1.台地部の遺構	9
(1)台地部遺構の概要	9
谷1202	9
(2)谷	9
谷1202	
(3)溝	10
溝1204	10
土壌1251	13
G46区南西群溝	13
G46区北東群溝	13
G46区北西群溝	13
(4)掘立柱建物	18
掘立柱建物1399	18
掘立柱建物1449	19
掘立柱建物1450	19
掘立柱建物1451	19
掘立柱建物1525	20
掘立柱建物1571	20
掘立柱建物1719	22
掘立柱建物1734	23
掘立柱建物1831	23
掘立柱建物1832	24
掘立柱建物1832	24
掘立柱建物1833	25
掘立柱建物2101	26
掘立柱建物2102	26
掘立柱建物2103	26
掘立柱建物2106	27
掘立柱建物2106	27
掘立柱建物2112	27
掘立柱建物2113	27
掘立柱建物2114	28
掘立柱建物2115	28
掘立柱建物2116	28
掘立柱建物2117	29
掘立柱建物2118	29
掘立柱建物2119	30
掘立柱建物2120	31

掘立柱建物2121	31
掘立柱建物2122	32
掘立柱建物2123	32
掘立柱建物2124	32
掘立柱建物2125	33
掘立柱建物2126	33
掘立柱建物2127	34
掘立柱建物2128	35
掘立柱建物2129	35
掘立柱建物2130	36
掘立柱建物2131	37
掘立柱建物2132	37
掘立柱建物2133	37
掘立柱建物2135	38
掘立柱建物2136	38
掘立柱建物2137	39
掘立柱建物2138	39
掘立柱建物2141	39
掘立柱建物2142	40
掘立柱建物2143	40
掘立柱建物2144	41
掘立柱建物2145	41
掘立柱建物2145	41
掘立柱建物2146	41
掘立柱建物2147	42
(5)不整な土壌	48
2.谷部の遺構	54
(1)谷部の調査と溝2195	54
谷1203	54
溝2195	54
(2)谷部の遺構	64
杭列2086	64
井戸2029	64
土器埋置1716・1717・1719	66
凹地1391	68
凹地1565	71
凹地2025	74
凹地2076	74
溝1561	75
溝1567	75
溝1741	78
土壌2026	78
Ⅲおわりに	79
掘立柱建物 溝2195	

## 目次

図1 1・2区(北東から、谷1203上部状況) 巻頭図版  
 図2 3・4区(北から、谷1203下部調査状況) 巻頭図版

図3 今宿五郎江遺跡調査地点(上方が北) 巻頭図版  
 図4 今宿五郎江遺跡第11次地点位置図(1:50,000) 巻頭図版

図5	今宿五郎江遺跡第11次地点位置図 (1:2,000)	4	図16	谷1202実測図(1:80)	9
図6	今宿五郎江遺跡第11次地点全景 (上方が北、谷1203上部調査状況)	4	図17	溝1204土層実測図(1:40)	10
図7	1・2区(北から、谷1203上部の調査)	5	図18	溝1204実測図(1:80)	11
図8	1・2区(南から、谷1203上部の調査)	5	図19	谷1202(南から)	12
図9	4区台地部遺構(東から、編集)	6	図20	谷1202遺物出土状況(南西から)	12
図10	3・4区の調査(北西から)	7	図21	溝1204遺物出土状況(東から)	12
図11	5区全景(北から)	7	図22	溝1204完掘(西から)	13
図12	1区北壁土層(南西から)	8	図23	溝集中部実測図1G46区西南部(1:100)	14
図13	1区北壁土層(南西から)	8	図24	溝集中部実測図2G46区北東部(1:100)	15
図14	1区谷1203土層(谷底断面、南から)	8	図25	溝集中部実測図3G46区北西部(1:100)	16
図15	1区北壁土層(波状の土層、南西から)	8	図26	溝1452(東から)	17
			図27	溝1338・1339(南から)	17
			図28	溝1417・1418(東から)	17
図29	掘立柱建物実測図(1)1:60,1:40	掘立柱建物1399・1449	18		
図30	掘立柱建物実測図(2)1:60,1:40	掘立柱建物1450・1451・1525	19		
図31	掘立柱建物実測図(3)1:60,1:40	掘立柱建物1571・1719	20		
図32	掘立柱建物実測図(4)1:60,1:40	掘立柱建物1734・1831	21		
図33	掘立柱建物実測図(5)1:40	掘立柱建物1831柱穴	22		
図34	掘立柱建物実測図(6)1:60	掘立柱建物1232	23		
図35	掘立柱建物実測図(7)1:60,1:40	掘立柱建物1332・土層・1333	24		
図36	掘立柱建物実測図(8)1:60,1:40	掘立柱建物1333土層・2101	25		
図37	掘立柱建物実測図(9)1:60,1:40	掘立柱建物2102・2103・2106	26		
図38	掘立柱建物実測図(10)1:60,1:40	掘立柱建物2112・2113	27		
図39	掘立柱建物実測図(11)1:60,1:40	掘立柱建物2104・2115	28		
図40	掘立柱建物実測図(12)1:60,1:40	掘立柱建物2116・2117	29		
図41	掘立柱建物実測図(13)1:60,1:40	掘立柱建物2118・2119	30		
図42	掘立柱建物実測図(14)1:60,1:40	掘立柱建物2120・2121	31		
図43	掘立柱建物実測図(15)1:60,1:40	掘立柱建物2122	32		
図44	掘立柱建物実測図(16)1:60	掘立柱建物2123・2124・2125	33		
図45	掘立柱建物実測図(17)1:60,1:40	掘立柱建物2126・2127	34		
図46	掘立柱建物実測図(18)1:60	掘立柱建物2128・2129	35		
図47	掘立柱建物実測図(19)1:60,1:40	掘立柱建物2130・2131	36		
図48	掘立柱建物実測図(20)1:60,1:40	掘立柱建物2132・2133	37		
図49	掘立柱建物実測図(21)1:60		38		
図50	掘立柱建物実測図(22)1:60	掘立柱建物2138・2141	39		
図51	掘立柱建物実測図(23)1:60	掘立柱建物2142・2143	40		
図52	掘立柱建物実測図(24)1:60,1:40	掘立柱建物2144・2145・2146	41		
図53	掘立柱建物実測図(25)1:60	掘立柱建物2147	42		
図54	掘立柱建物1399(東から)	42	図62	掘立柱建物1719(北から)	45
図55	掘立柱建物1399(北から)	42	図63	掘立柱建物1734(東から)	45
図56	掘立柱建物1449(北から)	43	図64	掘立柱建物1831(北から)	45
図57	掘立柱建物1450(北から)	43	図65	掘立柱建物1831(東から)	46
図58	掘立柱建物1451(北から)	43	図66	掘立柱建物1832(北から)	46
図59	掘立柱建物1525(北から)	44	図67	掘立柱建物1833(北から)	46
図60	掘立柱建物1571(北から)	44	図68	掘立柱建物1833土層1868(南から)	47
図61	掘立柱建物1571(東から)	44	図69	掘立柱建物1833土層1864(南から)	47

図70	掘立柱建物2130(東から)	47	図115	谷部1203-19層(西から)	70
図71	掘立柱建物2101(東から)	47	図116	谷部1203-19層(北から)	70
図72	土壌(1:80)	48	図117	凹地1565実測図(1:80)	71
図73	土壌1214完堀状況(北西から)	49	図118	凹地1565検出状況(東から)	72
図74	土壌1222(東から)	49	図119	凹地1565下部遺物出土状況(東から)	72
図75	土壌1222(西から)	49	図120	凹地1565下部遺物出土状況(西から)	73
図76	土壌1212(東から)	50	図121	凹地1565完堀(車から)	73
図77	土壌1213(北から)	50	図122	凹地2025(北から)	74
図78	土壌1214土層断面(北東から)	50	図123	溝1561(北から)	75
図79	谷1203土層(1)断面1・断面2・断面3	52	図124	溝1741出土状況(北から)	76
図80	谷1203土層(2)断面4・断面5・断面6	53	図125	溝1567(北から)	76
図81	谷1203(南から)	54	図126	溝1741(東から)	77
図82	谷1203(北東から)	54	図127	溝1567(南から)	77
図83	谷1203南半部完堀(北から)	55	図128	溝1567(西から)	77
図84	谷1203完堀(北から)	55	図129	土壌2026(1:60)	78
図85	谷1203完堀(4区南から)	56	図130	土壌2026(北から)	78
図86	溝2195段差部(G46-84区北から)	56			
図87	谷1203完堀(2・3区南から)	56			
図88	溝2195土層(G46-96区北面、南から)	57			
図89	溝2195土層 (G46-9535/31北面、南から)	57			
図90	溝2195土層(G46-83北面、南から)	57			
図91	溝2195土層(G46-73.83南面、北から)	57			
図92	溝2195北端深部(2区、北から)	58			
図93	溝2195土層(G46-99北面、南から)	58			
図94	溝2195土層(G46-97南面、北東から)	58			
図95	谷1203内杭列・矢板列実測図 (1:200)	59			
図96	矢板列1560・1557実測図(1:40)	60			
図97	矢板列2028(1:80)	61			
図98	坑列2111(東から)	62			
図99	矢板列1560(南から)	62			
図100	矢板列1560断面(西から)	62			
図101	遺構1557(北から)	63			
図102	坑列・矢板列2028(南から)	63			
図103	坑列・矢板列2028(南西から)	63			
図104	井戸2029実測図(1:40)	64			
図105	井戸2029断面砕検出状況	65			
図106	井戸2029(西から)	65			
図107	井戸2029堀形	65			
図108	土器埋置1719~1718実測図(1:20)	66			
図109	土器埋置1716・1717(北から)	67			
図110	土器埋置1716(北から)	67			
図111	土器埋置1717(北から)	67			
図112	土器埋置1391(凹地1203内)	68			
図113	谷部1203-19層(南から)	69			
図114	谷部1203-19層(西から)	69			

## I 今宿五郎江遺跡第 11 次調査の概要

### 1. 発掘調査に至る経緯

**伊都土地区画整理事業** 伊都土地区画整理事業は、福岡市西部、今宿平野の東半部を対象に計画された、施工面積約 130ha の区画整理事業である。その範囲は、高祖山麓の丘陵末端に残る段丘部と、今津湾岸に生成した砂丘後背地である低地とで構成された地形にある。ここでは史跡今宿古墳群を構成する 2 基の前方後円墳および、各段丘を中心として遺跡が分布し、周知の埋蔵文化財として登録されてきた。

**概要試掘調査** 1996（平成 8）年 11 月事業者である都市整備局（当時）伊都区画整理事務所から、事業計画内の埋蔵文化財について照会（受付番号 13-1-233）があり、それを受けた教育委員会埋蔵文化財課（当時）は、当該地内の可能な地点 68 箇所について試掘調査を行い、事業実施に先立ち埋蔵文化財の取り扱いが必要な範囲を確定した。しかし、対象範囲が広大であったことから、その詳細についてはなお、不明な点が多かった。

**確認調査** 個別の事業地、及び概要試掘調査後事業地に編入された区域については、工事工程との調整を行いながら、必要区域について詳細な試掘（確認調査）を実施し、埋蔵文化財の範囲・内容を確認したうえで本発掘調査に着手するという手順を踏むこととなった。



図4 今宿五郎江遺跡位置図 (1:50,000)

### 2. 発掘調査の実施

**今宿五郎江遺跡の調査** 区画整理事業に伴う発掘調査は、2002（平成 14）年度から実施した。すでに、砂丘後背地の低地では盛土が進行しつつあったなか、事業地東部の今宿五郎江遺跡を中心とした区域から埋蔵文化財の調査を進めてゆくことになった。調査は、確認調査の結果を受け、2002 年末の今宿五郎江遺跡第 8 次調査から着手した。同年度末から今宿五郎江第 9 次調査に着手し、翌 2003（平成 15）年度末完了した。なお、この調査地の一部は、谷遺跡第 1 次地点として区分した。

年度が開けて、今宿五郎江遺跡の中心部をめぐる位置で今宿五郎江遺跡第 10 次調査を 2004（平成 16）年度事業として実施した。調査は翌 2005 年に及んだ。第 10 次調査を完了し、続けて遺跡中心部に間に西側の谷に面した第 11 次地点の調査に着手した。

**今宿五郎江遺跡第 11 次調査** 発掘調査は、2005（平成 17）年 7 月 8 日表土剥ぎから着手した。調査では、調査区を南北 4 区に区分し、排水の都合を考慮して地形の下流側から進めたが、結果として、調査の進行に伴い谷部の作業に大きな手数を要したため、東側の台地部が先行することとなった。谷部の出土遺物量は膨大で、木器も大量に混じって出土した。また、下位で溝をはじめとし、予想外の遺構も検出することとなって、調査は翌年度に及んだ。さらに調査区西側に遺構分布が広がる可能性が生じたことから、5 区を設定、調査を行った（図 6～11）。

調査区からすべての遺物を持ち帰り、埋め戻しを完了したのは、2006（平成 18）年 12 月 9 日である。

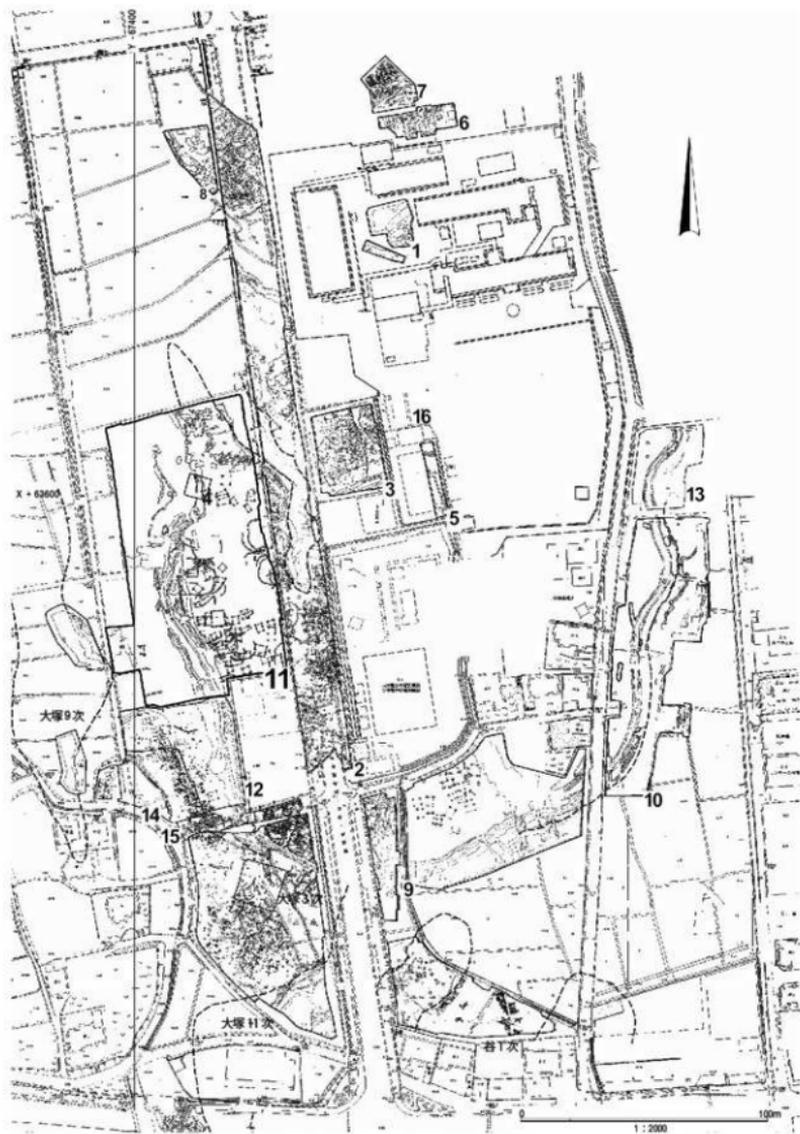


図5 今宿五郎江遺跡第11次地点位置図 (1:2,000)

※数字は、今宿五郎江遺跡調査地点(調査次數)。

### 3. 今宿五郎江遺跡の立地と調査地点の地形

**今宿五郎江遺跡の立地** 遺跡は、高低の台地地形上に立地する。高祖山麓から今宿平野へ伸びる丘陵末端に分布している台地のうち、砂丘後背湿地へ最も突出した地形となる位置に今宿五郎江遺跡が立地している。遺跡の中央は標高8mほどで、周囲より一段高い頂部となっている。調査により、この高まりは低い鞍部を間に南西へ続き、その周囲にあって一段低く平坦な台地上に遺跡が広がっていることがわかってきた。なお、遺跡の西半部では、谷が深く入り込み、台地を細長く分割している。

**第11次調査地点の地形と土層** 調査地は、遺跡西半部地形上に立地している。調査区内を谷が蛇行しながら北流し、東は同じ台地上で隣接する2次地点へと続くが、その北東部は北から入り込む谷(谷1202)により境されている(図5・6)。

11次調査地点とその周辺は全域水田で、耕地整理が行われた結果、谷地形は完全に埋没し、北へ向かう緩い傾斜地となっていた。現地形の基盤層は褐色粘土層で、この層は調査地外に広がり、今宿五郎江遺跡西半部、遺跡が立地する平坦地の全域を覆うものと観察される(図12～15)。調査区北壁で厚さ0.4～0.6m。全体に変化が少なく均質である。調査区北部台地上では、これの下位に黒褐色シルト質粘土が分布しており、古い時期の表土かと考えられる。その下が地山台地堆積層である。地山面は変化が著しく、粘土層から砂礫層まで幅がある。第11次地点の台地部は、確認調査時の所見から調査区内の谷筋と、第2次調査地点からの谷筋が調査区北で合流する位置まで広がるものと思われる。台地部調査面の標高は、南東隅で5.6m、緩く北へ下り調査区北端で標高3.2mとなる。

谷部では、現地形基盤層下は、谷部を埋めた黒褐色シルト層となる。調査区北壁ではこの層下が、本来の谷底を埋める砂礫層(13層)となる。この砂礫層以下では、遺物の出土を確認できなかった。谷部で調査した遺構遺物は、両者の間に収まるものである。

### 4. 第11次調査出土遺構・遺物の概要

調査の全体については、先述したような状況で台地部と谷部の上部を終えた後、谷部下部の調査を進めることとなった。

**検出遺構** 今宿五郎江第11次調査で検出した遺構は、台地上と、谷部とに分けることができる。調査で台帳に登録したものは961件、うち台地部で登録したものが大半である。また、登録した以外に遺物の出土のない小穴が多数分布している。

台地上では、主に谷東岸台地の北に偏って土壇群が、南に偏って柱穴が分布する。柱穴の分布域と重なって、溝が群在する。2次調査区から伸びる溝も確認した。柱穴から掘立柱建物を復原することができた。

谷部では、調査区外から続いて溝が掘削されており、調査区内で終わる。溝の掘削後、谷の埋没する過程で多量の遺物が投棄されて包含層が形成され、重層的に遺存する。また、凹地、溝が形成されて木器類ほか遺物が纏まって出土している。数は少ないが、土壇、井戸も掘削されていた。

調査経過、遺構のまとめから、次章以下、台地部の遺構、谷部の遺構として報告する。

**出土遺物** 調査ではコンテナにして3,900箱あまりの遺物が出土した。大半が谷部の調査で出土した。多くは後期弥生土器で、中期、終末期弥生土器が加わる。

さらに谷部から多数の木器を含む木質遺物が大量に出土した。その種類は、農、工、漁撈具から容器、建築部材、武具等に及ぶ。銅製品、鉄器等の金属器もやはり谷部の出土である。また、攻玉関連資料が、谷部付近に形成された包含層から出土した。



図6 今宿五郎江道跡第11次地点全景（上方が北、谷1203 上部調査状況）



図7 1・2区（北から、谷1203上部の調査）



図8 1・2区（南から、谷1203上部の調査）



图9 4区台地新规划(东5、南组)



図10 3・4区の調査（北西から）



図11 5区全貌（北から）



図12 1区北壁土層（谷1203東岸、南西から）



図13 1区北壁土層（東台地部、南西から）



図14 1区谷1203土層（谷底部断面南から）



図15 1区北壁土層（波状の土層南西から）